
こけしの神様

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こけしの神様

【Nコード】

N2751K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

こけし屋さんには、不思議なこけしがある。

こけしが起こすプチミラクルをご覧ください。

こけし職人は毎日こけしを作って売っていた。
売り方が上手いのか、こけしブームなのか、作ったこけしはすぐ売れた。

一つこけしが売れる度に、職人はこけしの神様を拝むのだった。

しかし一つだけずっと売れずにほりりをかぶったこけしがある。

「色合いも、顔立ちも、形も申し分ないのになあ」

職人はそのこけしを改めてじっくり見たが、やはり欠点は無い。

暇なときに気になって見ているうちに、そのこけしに愛着がわいてきて、いつしか

「今日は売れるといいな」

とか、職人はこけしに話しかけるようになった。

「売れるようにこけしの神様にお頼み申し上げよう」

職人は熱心にこけしの神を拝んだ。

十年ほど経ったある日、ついにそのこけしが売れた。

「なぜ、そのこけしを選んだんですか？」

「なぜって言われても、何となく気に入ったから」

職人は娘を送り出す親の気持ちで、こけしとさよならした。

それつきり職人のこけしはあまり売れなくなった。

「まさかあのこけしがこけしの神様だったのか」

こけしを買った女の人は程なく結婚し、こけしに似た女の子をたくさん産んだという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2751k/>

こけしの神様

2011年1月26日04時42分発行